

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

むろの独活暗き中より掘り出され歯ざわりよろしく春をはこび来 川村 静恵
 卒業式凛と返事を返したる子らの姿に我が身を直す 四竈 英夫
 雪残る鉢森の古道のほり来ぬ荷を背に通ひし先人しのぼる 後藤今朝雄
 ひさびさに姑の墓前に会ふ人等 世代交替見知らぬ顔ばかり 平間 久子
 亡き夫の酔うを疎みしあの頃もおぼるとなりて唯なつかしく 阿部はぎの
 残雪を運動がてら踏みてゆき日向の土手に露の薫つむ 八嶋 正子
 丸い背に明るみ増した春日うけ今年初めて浅葱を掘る 阿部みさ子
 スケート靴履きし如くにセキレイは春浅き町軽やかにゆく 寺崎 悦子
 どんぐりの帽子のような雪化粧 妻小富士に積もれるが見ゆ 鈴木久美子
 巣立つ朝泣かずと決めて式にむかう女子らの言葉に涙出でたり 鈴木 茂子

【評】一首目、軟白にふれながら、生食・和えもの何れであろうか、春の風味を頂く喜びを詠う。
 二首目、祝意をととのえる作者。張りつめた式場の感じがよく出ている。
 三首目、春浅き山の古道、かつて往来した人々に思いを馳せる。

俳壇

遠藤 秋尾 選

フランタン何を詩こうか春の土 福原 峯子
 朝刊を配りくれし子卒業す 山家 弘子
 干したシャツふわりと香る春隣 寺崎 悦子
 日溜りの欠伸大きく路の臺 岩松 隆志

柳壇

四電 英夫 選

草刈りの情に残る薊かな 制野 リエ
 傘忘れ来しを悔まず春時雨 斎藤 典子
 大空を流れる雲も春の色 高子うこん
 母の忌や墓石に消える名残雪 水戸 光穂
 春めくや客見送りて宵の月 阿部はぎの
 梅の花つぼみふくらむ日和かな 川村 静恵

【評】一句目、プラランターの土を入れ替えて、「さて、何をまこうかな」という楽しみの時間である。春土の季節が生きた作品となった。
 二句目、毎朝、新聞を配達してくれた子が卒業したという。親が子どもを見るような喜びで、その子の前途を祝うとともに、寂しさが表現された句。
 三句目、干し上がったシャツから漂う日の香りを「ふわり」と表現された。もう春はすぐそこに。

蹟いた石が教える回り道 草野 清
 隠し芸披露せぬうちお開きに 大庭 良子
 外見には分からぬ人の不幸 斎藤 典子
 老い二人頬杖ついて申告書 水戸 光穂
 健康美一汁二菜で丁度いい 高橋 要一
 八十のパワー全開マイク持つ 阿部みさ子
 鏡見て無駄な抵抗かせない 寺崎 悦子
 夕暮れに夜風のせくる鐘籠 遠藤 行夫
 福寿草毒持つ花とは知らなんだ 高子うこん
 義理チョコのつもりがいつか夫婦酒 大槻 常彦

【評】一句目、「回り道をすれば蹟かずに済みますよ」と、石が教えてくれた。人生、時には回り道も必要なかも知れない。
 二句目、折角取っておいした隠し芸を、披露しないうちにお開きになってしまった。残念至極。「証文の出し遅れ」にならないよう。
 三句目、「隣の芝生はきれいに見える」とか。一見幸せそうに見えるも、苦勞の絶えないのが人生なのだろう。むべなるかな。

国際コーナー

International Corner



国際コーナー

「花粉」

スキーシーズンが終わり、白石もだんだん暖かくなってきました。最近、周りに風邪をひいている人がたくさんいるなと思っていたらそれは間違いで、毎年この時期にはやる花粉症だと知り、ビックリしました。日本語の勉強で、何度か花粉症の話は出ましたが、やはり、自分で体験してみないと、なかなかそのスケールを想像できないものです。まさか、こんなに空気の色が変わるとは思いませんでしたし、マスクをして職場に来る方の、人数の多さにも驚かされました。

実は、花粉症は海外にもあり、「Hay Fever (ハイフィーバー)」と呼ばれます。僕のふるさとシドニーでも、春が来ると花粉症で苦勞する人がたくさんいるはずなのですが、日本と違って誰もマスクをしないので、それほど目立たない気がします。また、ニュースでも花粉症は話題になりませんし、白石のように、空気の色も変わりません。花粉症に対する意識の違い以上に、外国人が初めて日本に来たとき驚くのは、マスク利用の多さです。オーストラリアでは、風邪や熱、インフルエンザなどの病気にかかる、まず医者と相談して、必要であれば薬

をもらい、病体を取って家で治るまで休むのが普通です。仕事を休めない人や休みたくない人は、そのままクシャミをしながら働きます。日本の皆さんは「あれ、マナーがおかしい。汚い！」と思うかもしれませんが、これは、風邪をひいたときは、薬を飲んでゆっくり休むか、クシャミをするときに周りに移さないよう、手やティッシュで口を覆うことを小さいころから教えられてきたからです。また、シドニーは面積が広い割に、人口が比較的に少ないので、マスクをしようと思わないのかもしれませんが。

いずれにしても、さまざまな国を旅すると、それぞれの国で考え方が異なり、別にどちらが正しいとは誰も判断できないのだということを教えられます。マスクの方が周りに優しいと思えば、それも正しいと思うし、体を休ませるのが健康には一番であるとも言えるでしょう。また、別の考え方を持てば、経済にも利益があるのかもしれませんが、しかし、何より、それぞれの国に添える方法が一番なのではないかと思います。

では皆さん、ゴールデンウィークをゆっくり楽しんでください！

風間市長の風のことわざ

「君子不器」

今年「伝統」「新作」など、どんな技がちりばめられた作品が展示されるのか楽しみです。こけしを部屋などに飾って見つけていると、その顔や模様、形や愛らしさに心が静まります。ぼつかりあいた心のすき間を埋めてくれるような気がします。工人が持つ、技術のなせる業だと思いますが、不思議なものです。そういえば身の回りから「木地」というものが減って、機械的な人工品がますます増え

活から減ってきたため？」などと勝手に考えています。表題の「君子不器」は、論語の一説です。すぐれた人物(君子)は一つの器のようなものではない、つまり「一つの才能に秀でただけではなく、あらゆる才能を持つていて、どんなことでも巧みにこなす、一つの使い方だけではなく、多方面にわたる自在に自分が持つ潜在能力を発揮することができる」ことを意味しています。

話が変わりますが、フグはなぜ「河豚」と書くのでしょうか？
 【4月号の答え】
 トランプの13はキング、つまり王様。12はクイーンで女王様。キング、クイーンとくれば、当然王子様といきたいところで、実は「家来」という意味です。そしてトランプの絵札には、それぞれモデルがいるようです。

これからの歴史や伝統を大切にしつつ、工人が持つ、多様な技術やアイデアが発揮され、新しい息が木地に吹き込まれた、素晴らしい工芸品が続々と誕生することを期待しています。

開催期間中、会場となるホワイトキューブにはさまざまな作品が展示され、マイナスイオンで癒やしの空間へと変わります。このほかにもさまざまなイベントが予定されていますので、楽しみにしてご来場ください。そして、心の豊かさを手に入れてください。3日は街中で「市民春まつり」も行われていますので、そちらもぜひ楽しんでください。20年度の多種多様なお祭りが始まりです。参加する側も見る側も、大いに楽しみましょう。

まちの話題

～あの日、あの時～

越河保育園幼年消防クラブの火災予防運動

3月5日、越河保育園幼年消防クラブの子どもたちが、地区内を歩きながら火災予防運動を行いました。今回の運動に参加したのは、同保育園に通う5～6歳の子どもたち18人。おそろいの法被で拍子木を打ちながら、沿道に出てきた地元の皆さんに「火の用心、マッチ一本火事のもと！」と元気な声で火災予防を呼び掛けました。

この催しは、春の火災予防週間に合わせて、毎年行われているものです。子どもたちには白石消防署や地元消防団の皆さんが付き添い、火災予防を呼び掛ける園児たちを見守りました。

越河保育園では12年ほど前、市内の保育園で初めて幼年消防クラブを結成しました。現在も園児全員がクラブ員として、消防演習などの各種行事に参加しています。



▲出発前に防火の誓いを立てる子どもたち

早い段階から住民レベルでの地域防災体制強化に取り組み、平成18年には市内で初めて自主防災組織連合会を結成した越河地区。子どもから大人まで、安全・安心への意識が浸透しています。